

CONTENTS

- 町の掲示板 2
- こうげ文芸 9
- 町の話 10
- 食を育てる 12
- カルチャー 13
- 町の情報ひろば 14
- 素敵人 16

「卒業、想いを乗せて未来へ」



唐原小学校 感動の卒業式

式が終了し、退場した卒業生が再登場。お世話になった先生方へ、お礼の言葉と花束が贈られました。PTAと児童が企画した驚きの演出で、会場は感動の涙に包まれました。

Photo 上毛町フォトクラブ 常慶 忠一さん

<http://www.town.koge.lg.jp>



●編集発行/上毛町役場企画情報課
〒871-0002
福岡県築上郡上毛町大字垂水132-1
TEL 0979-72-3111
FAX 0979-72-4664

人の動き

2月28日現在

●人	8,145 (-19)
●男	3,871 (-10)
●女	4,274 (-9)
●世帯数	3,090 (-9)

参考
平成17年10月11日
合併時
●人 8,499
●世帯数 3,057

ごみの量

2月28日現在

- 可燃ごみ 106.10t (-12.97t)
- カン・ペットボトル 2.22t (-0.18t)
 - びん 3.43t (-0.63t)
 - 古紙他 14.43t (-3.04t)
- 可燃粗大 1.36t (-0.28t)
- 不燃 5.66t (+0.01t)
- プラスチック製容器包装 1.73t (-0.56t)
- 紙パック、白色トレイ 0.09t (+0.02t)



たくさんのありがとう 溝口 奈々子さん

小学校を卒業したあの日から、あつという間に三年が過ぎ、ついに中学校を卒業します。三年間たくさんのことを学び、経験しました。それが出来たのは、たくさんの人の支えがあったからだと思います。

勉強だけでなく、たくさんの方の支えを覚えてくださって先生方、迷惑をかけることもたくさんありましたが、いつも私たちが一番に考えてくれました。私たちがより分かりやすく教えるために、一生懸命授業してくれました。そのおかげで、しっかりとたくさんの方の支えを覚えてきました。

いつもそばにいてくれた友達。辛いときも悲しいときも、心の支えになってくれました。部活でお世話になった先輩方。失敗して迷惑をかけたときも、優しく慰めてくれました。私を頼ってくれた後輩たち。頼りない私だけど、色々相談してくれました。

反抗してばかりだったけれど、いつも私を見守ってくれた家族。怒られて反発することもあったけれど、すべて私のためでした。嬉しいことがあったときには、自分のことのように喜んでくれました。

中学校の三年間、私を支えてくれたたくさんの方たちに「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



こうげ KOGE absolute peach 素敵人

卒業、想いを乗せて未来へ

中学時代の思い出 竹田 有沙さん

ふれあい合宿、修学旅行、社会見学。三年間でとても多くの思い出を作ることが出来ました。

学校に慣れなくて、たくさんの方に迷惑をかけた。学び、成長していった一年生の頃。二年生になると、勉強と部活の両立が大変でした。三年生になり、進路のことで悩みました。担任の先生は、真剣に話し合ってくれました。悩む私に冷静に接してくれた先生を見て、自信がわいてきました。だから、志望校に内定し、後悔することなく、前に進むことが出来ました。

私は三年間、本当にたくさんの方に助けられました。いつも私を見守ってくれた家族、反抗してしまったりもしたけれど、ちゃんと怒ってくれて、背中を押してくれた先生方。毎日疲れているのに、厳しい練習をしてくれた顧問の先生やコーチ。とても感謝しています。今までたくさんの方の経験ができたのは、周りの方々のおかげです。三年間を振り返ってみれば、たくさんの方が関わってくれました。その当時は、反抗したり、嫌いだと思ったりもありました。でも、今思うと、その人たちがいたから、三年間でこんなにも成長することができました。これからも、もっとたくさんの方の人と関わって、たくさんの方の支えを受けていきます。



この春、お世話になった築上東中学校を卒業し、それぞれの進路に向かって歩み始めた若きホープたち。お二人に、今の気持ちを聞かせていただきました。

東北地方太平洋沖地震災害救援物資を提供しました

町では、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震被災地への支援になればと、災害対策用に備蓄していた毛布200枚、非常食1,000食、ペットボトル入りの飲料水2リットル300本を提供しました。この支援物資は、自衛隊により被災地に運ばれます。また、皆様から提供いただける物資の情報を受け付けております。皆様の温かいご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

●受付先 総務課 総務係 TEL 72-3111



こんにちは。企画情報課の森重一です。

編集後記

東北地方太平洋沖地震は、未曾有の大災害となり、未だ全容が掴めないという甚大な被害をもたらしました。自分達に何が出来るか。震災発生当初、テレビ等で次々に飛び込んでくる衝撃の映像に目を疑い、まるで映画を観ているかのような自然の脅威を半ば放心状態で眺めながら、ずっと考えていました。

被災地に必要な第一段階の支援は、救助と物資の提供。すぐに社会全体として支援の輪が広がりましたが、実は被災地(特に孤立した避難所)に、必要な支援が行き届いていないという現実を知らされました。なぜ、これだけ技術が進歩した現代において、必要な物資を必要と場所に届けられないのか、もどかしく思います。現場の本当の状況が伝えられていないからかもしれません。第一線において、決死の覚悟で作業に当たっている方々がいるにもかかわらず、その姿は、あまり報じられていないような気がしています。

マスメディアによる大衆操作が問題視される今日、災害などの緊急時においても、正しい情報がどれなのか判断することすら困難になっていると感じます。ただでさえ、情報の少ない被災地では、誤った情報でも判断する材料がないため、入ってくる情報全てに一喜一憂するそうです。「自分達にできること」の一つとして、正しい情報をしっかりと判断できる眼を持ち、誤った情報は正していくことが大切ではないかと思っています。一日でも早い復興を願い、自分達にできることを考え、できるかぎりの支援を行っていきたくと思っています。